



不安定な心のフォローこそ

福岡いのちの電話 理事
長谷川 彰
(西日本新聞社編集委員)



昨年の秋、九州のある県に住む中学1年の女子生徒が、自ら命を絶つという痛ましい出来事がありました。ご両親は「学校でのいじめ」を訴え、教育委員会は第三者委員会を設けて調査を行いました。その報告書は、いじめがあったのは事実だが、他にも要因があり、学校生活が原因となったとは判断できない—という結論でした。ご両親は納得されていないようです。この結論の適否を軽々に論ずることはできませんが、一つ、目に留まった点がありました。この女子生徒が命を絶ったのと同じ頃、全国で児童・生徒の自殺が急増していたというのです。それを踏まえ報告書は、コロナ禍による長期休校によって、心が不安定になる恐れがあった状況で、学校は本来できたはずの「不安定な心のフォロー」が十分にできていなかったと指摘していました。

全国で新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言などが続く中、自殺者は増加傾向にあり、女性の増え方が目立ちます。警察庁によると、全国の自殺者数は2010年以降、徐々に減りつつあった流れが、昨年からは増加に転じました。数自体は男性の方が女性より多いのですが、今年7月末の速報値を前年同期と比べると、男性の5%増に対し、女性は17%増と顕著です。

福岡いのちの電話の場合、相談は匿名で受けるため

詳細は不明ですが、30代、40代が以前より増え、自殺する恐れがあると感じられた電話も女性の方が多い、というのが相談現場の実感のようです。コロナ禍に関する相談は、今年前半は感染防止対策を背景とした生活苦や家庭内の問題を吐露する内容が中心でした。非正規労働だった人からの「解雇されて生活できない」といった嘆き。在宅勤務となった人からは「人間関係のトラブルが多い職場だったので解放されると思ったのに、人との接触がほとんどなくなり、かえってメンタルがおかしくなった」との声も届きました。夏場に入って以降、家族をコロナ感染で亡くした喪失感、後遺症の苦しみ、「ワクチン接種の予約が取れない」「接種するのが怖い」と悩む声も増えています。

できるだけ面会を避けるよう求められている事情から、苦悩の声を丁寧に聴き取る「いのちの電話」の傾聴事業は、対面しなくても心に寄り添える点で、ますます重要になっていると考えます。人の命に軽重はありませんが、中学生といった若い世代が生きることを断念する現実には、一層無念が募る私がいいます。不安定な心のフォロー。そのためにも力を尽くしていきたいと思えます。

2021年度第1回 全体研修

人権に関する“気付き”を広げ、 よりよい相談を“築き”ましょう

元福岡市人権啓発センター相談員/養成講座講師 笠原 嘉治氏

7月3日(土)午後1時から、福岡市中央区のTKP ガーデンシティ天神で、2021年度第1回全体研修を開催しました。元福岡市人権啓発センター相談員で、福岡いのちの電話養成講座講師の笠原嘉治氏をお招きし、“気付き”という切り口で、人権をテーマにお話をいただきました。

笠原氏は、社会には困り事を抱えている人がいること、得てしてそれは社会の少数者であること、そしてその存在と困り事に気付かない大多数の人がいて、悪気なく接する中に、その困り事を抱える人たちに知らず知らずに痛みを与えることがあること、その困り事存在、痛みに気付くこと、少なくとも気付く努力をすることが人権を考えるうえでいかに大切かということ、具体的な例をいくつも示されながら、わかりやすく話されました。以下、受講生の感想をご紹介します。

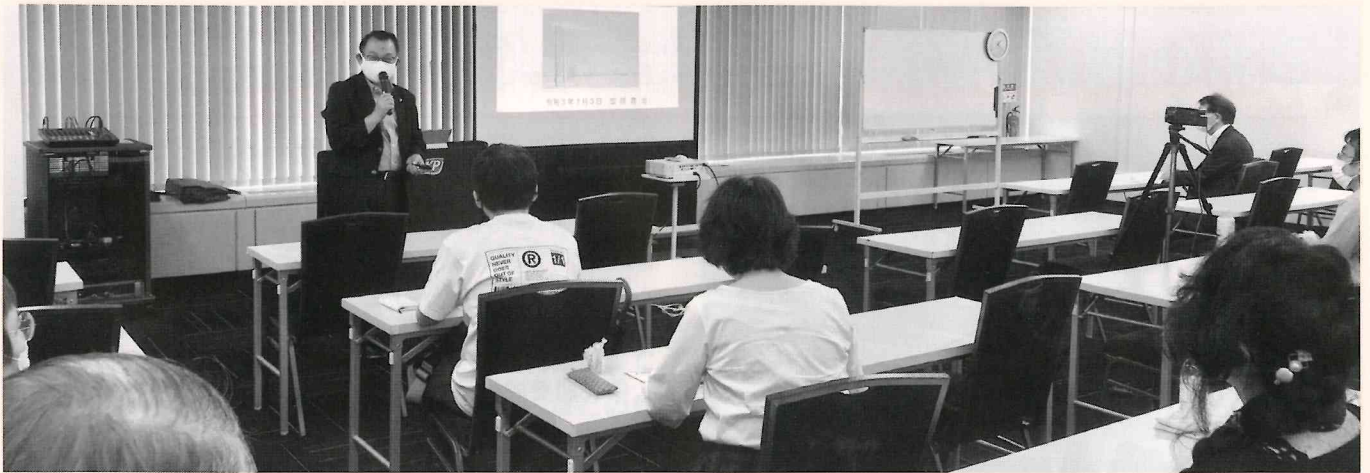
はじめに、最近のニュースからいくつかの具体的な人権侵害の事例が提示され、次いで各自の人権感覚のセルフチェックを行った。普段の生活の中で特に意識することもなく見過ごしてしまいがちないくつかの事例でセルフチェックを行い、偏見を抱かないために相手の背景に考えを巡らすことの重要性を学んだ。

さらに、ヒトの心はなぜ「人権侵害」を生むのか、なぜ差別が生まれるのか、そのメカニズムに学びは進んだ。ここでも具体的事例を教材に、悪意はないが相手を傷つけてしまう自覚なき差別を意味する「マイクロアグレッション」、大人が意図する・しないに関わらず、子供が学び取っていく全ての事柄を指す「ビハインド・カリキュラム」等を学んだ。調べるとこの用語は、学校における表のカリキュラムに対する裏のカリキュラムの意と定義されているが、この研修では学校という枠を外し、子供を取り巻く全環境の中に「ビハインド・カリキュラム」が位置づけられていたと思う。女らしさ、男らしさなどの社会的性差をはじめとし、無意識のうちに子どもたちに色々な偏見や差別を植えつけていないか、大人は常に自問する責任がある

と思った。最後に研修は、偏見を生まない正しい認識形成を説き、さらに今の日本社会の男女平等や外国人労働者の状況が、先進諸国の中でいかに異常かに気付くことを求めて終わった。

研修の後、人権に関する気付きの目で周りを見ると、なんの疑問も抱かず受け入れてきた事柄が、当事者の方々の生きづらさとなっている事例がいくつもあることに驚いた。広く国民が知っている薬物乱用防止の「ダメ。ゼッタイ。」ポスター。薬物依存症家族の会はポスターの協賛団体であるロータリークラブや保護司会などの1,000を超す団体に、貼らないで欲しいとの要望書を提出している。「ダメ。ゼッタイ。」は薬物使用がダメを超え、薬物使用者が「ダメ人間」というスティグマ(負の烙印)を刷り込むものと訴えている。さらには生活習慣病という分類、そしてその一つの糖尿病という病名も患者さんにスティグマを貼るものだと医者や関係団体は科学的データを根拠に訴えている。

私たち相談員は自分の世界を超えた相談も多く受ける。自分が当たり前だと思っている思考の枠を取り払い、外の世界を想像する、偏見のない開かれた心を持つ、



そのための正しい認識の獲得といった日々の努力が、さらなる共感を生むと再確認した。

(K. J)

7月3日、天神の会場にて、笠原嘉治先生を講師にお迎えし、『人権について』を主題にご講義いただきました。人権というと、子どもや高齢者、障害者、女性、LGBTQ+、外国人、被差別部落出身・在住者、公害被害者など、少数者や弱者のためにあるもので、社会や公的機関、多数派や力がある者が思いやり・優しさの気持ちから恵んで与えてあげるもの、という誤解が社会に根強くありますが、決してそうではありません。「してもいい」ということを「権利」と言い、そのうち、生きて行くために必要な権利を特に「人権」と言います。市民権が何らかの義務や責任を果たすことと引き換えに付与されるのに対して、生きるために必要な権利＝人権は、義務や責任を果たすことと引き換えに付与されるのではなく、生まれながらに全ての人に保障されなければなりません。

今回の研修では、人権侵害の具体例や、人権侵害を予防するために必要な姿勢などについて分かりやすく解説がありましたが、前述の《そもそも人権とは》という基本理念についての解説がほとんどありませんでした。「いのちの電話の相談員なら知っている当然」とのご判断で割愛されたのかと思いますが、通話者と向き合う上でとても大切なことですので、私たち相談員は折に触れ振り返ることが必要だと思います。

人権侵害は、一部の《悪い人》が悪意を持って行なう例はごくまれで、悪気はないものの、無知と思いつ

みによって、無意識のうちに行うことがほとんどで、そのため誰しも加害者になりかねません。今回の研修では、自動販売機や自動改札機、飲食店のお皿の例等を基に、そのことに改めて気付かせてくださるお話があった点は、とても良かったと感じます。

人権侵害を防止・縮小するための努力は、定着するまで面倒くさいことかもしれません。重たい物を持って欲しい時、「男の子、手伝って」ではなく「力のあつる人、手伝って」と声をかけてはとの提言に疑問の声があがったことも、一定の理解はできます。

意識にしろ、制度にしろ、改革には時間とエネルギーが必要です。でも、私たち人間は、不十分ながらも当事者の声に耳を傾け、少しずつ人権侵害や差別をなくす努力をして来たはずで、未だ多くの人権侵害・差別が残っており、全ての人権侵害や差別を直ちになくすことは現実的ではありませんが、私たち一人一人が人権感覚を常に磨き、考え方をアップデートして行く努力が求められていると考えています。

(T. T)



第46期 養成講座2日研修(人間関係訓練Ⅱ)

「楽しく絆深まった!」



8月7日、8日に福岡市博多区「パピヨン24」で岡田健一氏を講師に迎え、第46期電話ボランティア養成講座「人間関係訓練Ⅱ」が開催されました。この講座は本来宿泊研修でしたが、コロナ禍のため昨年同様日帰りで実施。両日の研修で、第46期17名はさまざまなワークを体験しました。

例えば、受講生2人組で互いに自分のことを語り合い、聞き役はその話の印象をクレパスで紙に描きます。話した方も自分の話を紙に絵で表現します。その後、2人で見せながら感想を述べ合い、自分で気付かなかった特徴を相手から教えてもらいました。また、自分でも新たな側面を発見したようでした。

このようなワークは社会人として体験する機会がなく、受講生一同は興味深く楽しんでいる様子でした。なにより、お互いをよく知る機会であり、46期生それぞれの理解と絆

を深める時間となりました。同期生間の親交はお互いを支え合い、今後の活動を続ける源となることでしょう。

第46期養成講座は8月中にPart 1が終わり、9月から来年8月までPart 2の電話実習が始まります。通話者から生の声を聴き、さまざまな悩みや困りごとに接することになります。この実習で「福岡いのちの電話」ボランティアの仲間入りをし、組織の一翼を担っていきます。(S. Y)



第47期のボランティア応募は締め切りました

今年度は23名の方が応募されました。その内、電話ボランティアが21名、事業ボランティアが2名でした。

開講式を10月6日(水)に行い、それ以降、月2回ほどの講座や演習が2023年8月まで実施します。



第45期生閉講式

9月1日(水)、第45期電話ボランティア養成講座閉講式を行いました

第45期生6名が2年間の養成期間を終え、電話ボランティア委嘱状を久保千春理事長から受領しました。松尾教育委員長はじめ養成サポーターなどの参加の中で、多くの祝辞を受け、6名それぞれは思いを新たにしていました。以下に、閉講式を終えての感想を紹介します。

電話相談員認定を受けて (Y. M.)

まず、「1年間の電話ボランティア養成講座」プログラムを見て、え？ 続けて行けない！でもとりあえず最後まで・・・と。

中でも5回のロールプレーでは、先輩サポーターに厳しく意見され、落ち込む私にそっと、渡されたメモに「一生懸命通話者に寄り添い支えたいと願って対応していることはすごく伝わってきます。あなたの優しさに救われる通話者もこれからたくさん出てくると思います。これからはあなたの頑張りに期待していますよ」と書かれていて、思わず大泣きしてしまいました。今でもその時のメモ紙は私の大切な宝物です。

今後も「基本を大切に」を心に留めて、寄り添い共感しながら傾聴し、「もう一度今の気持ちを聴いて貰いたいなあ」という思いで、自殺を思いとどまってもらえると信じて、日々自己研鑽に励み、焦らずに慌てずに「頑張り過ぎないでね。」と電話で声かけをしたいと思います。



電話相談員認定を受けて (H. Y)

9月1日(水)、無事に福岡いのちの電話相談員の認定をいただき、これから何年続けられるだろうかと不安を隠せないこの頃です。振り返れば2年前に受けた講義では、それぞれ専門的なことを先生方からわかりやすい言葉で説明を受け、何十年も昔の学生時代とは異なった考えや想いが年齢とともに私の中で成長していることに気付きました。

電話相談の練習では、先輩方の温かなアドバイスをいただいていたので、実際の電話でも落ち着いて相談を受けることができました。それでも時々、慌てないようメモをそっと差し出してくださるなど支えていただいていたことに心強かったです。

電話相談の通話者は、これまでの私の人生の中で出会ったことのない精神の病を患っている方もいます。誰にも話せないことをこんな私に話してくれることに感謝しています。

これからも余計なことを言わないで、見極めをもって傾聴することの難しさを学び、私自身が成長していきたいと考えるこの頃です。

株式会社久原本家グループ本社様より寄付をいただきました

株式会社久原本家グループ本社様から、コロナ禍で相談活動に従事しているボランティアの方の苦労を少しでも支援したいと、食卓が楽しくなる商品の寄付をいただきました。

ボランティア全員感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



めんたいポテトサラダキット



和風だし香る山芋鉄板キット





～福岡市子ども総合相談センターの相談電話から～

臨床医から行政医師となって32年、福岡市の保健医療の各分野で、個々の、また地域の人たちの健康を守る仕事に携わってきました。この4月から、児童福祉の最前線である子ども総合相談センター（えがお館）で、まさに子どもとその家族（家庭）の問題にどっぷりつかる生活となりました。

えがお館では、子どもと家庭への支援の入り口として、子どもに関する24時間電話相談、虐待相談や通告、女の子専用電話相談などを受けています。昨年度は約11,000件の電話相談を、専門職スタッフ等でじっくりお話を聴き、その中で内容・緊急性に応じてえがお館での面接相談等の支援や適切な関係機関の相談窓口につないでいます。

相談者で最も多いのは母親で全相談の67.5%、さまざまな子どもや子育てについて悩んでの相談が寄せられています。泣きやまない、イヤイヤ期、育てにくいなどの乳幼児の育児についての悩み、発達障がいなどで学校や家庭でトラブルとなっていて当惑している、子どもによる家庭内暴力など切迫した相談、親子関係が悪化し暴力・暴言、それをきっかけとして家出し、これ以上子どもを見れない、という悲痛

な相談も。また、パートナーからのDVや無理解など家庭不和から子どもに影響が出ているという相談もあります。また、子どもに対する学校の対応への不満やトラブルについての相談も。

子ども自身からの相談は全相談の約5%で、学校での問題、友人関係の悩み・トラブル、進路についての不安、家族との不和や、虐待を受けているという相談もあります。

また、えがお館では虐待の相談通告を受けていますが、その中でも警察からの虐待の通告は年々増加し、昨年度は1,603件と虐待通告全体の60%で、うち子どもが夫婦間等の暴力を目撃したという面前DVの通告が800件と年々増加し続けています。

親と子、夫婦など人と人との関係が非常に難しくなっている、その上身近に相談する人がいないという状況、さらにコロナによる生活の変化も加わり、不安定な環境で暮らしている子ども・家庭が増加していることが懸念されます。このような子どもと家庭を支えるために、見守り伴走する人たちや場、仕組みを、相談機関や関係機関はもちろん社会全体で考えていく必要性を感じています。

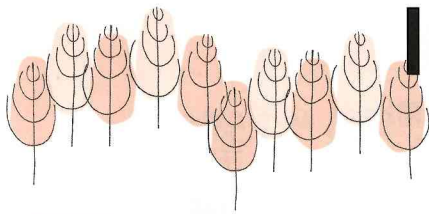


オリジナル「支援自販機」設置をお願いします



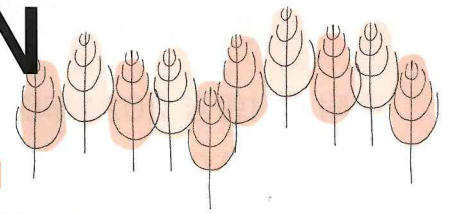
JR篠栗線「城戸南蔵院前」駅入口の自販機

企業、団体から、販売収益の全額または一部をご寄附いただく「自販機支援募金」として自販機設置のご協力をいただいています。ご利用いただく皆様からも、間接的に福岡いのちの電話を支援していただくこととなります。おかげさまで多くの支援募金をいただいております。ありがとうございます。



INFORMATION

インフォメーション



日誌 2021.6.1~2021.8.31

6月

- 7 相談活動運営委員会
- 9 第46期生養成講座
(講師：衛藤暢明氏)
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」研修担当者研修会
(リモート)
- 12 評議員会
第3回理事会
- 18 受信資料検討班会
- 19 インターネット相談活動班会
研修運営班会
- 22 事業ボランティア「手づくり会」
- 23 事務局会議
第46期生養成講座(演習④)
- 25 日本いのちの電話連盟総会
(リモート)
- 26 全国事務局長研修会(リモート)
- 30 第3回教育委員会

7月

- 3 研修運営班会
第1回全体研修
(フリーダイヤル研修を兼ねる)
(講師：笠原嘉治氏)
- 5 相談活動運営委員会
- 7 第46期生養成講座
(講師：松尾公孝氏)
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 13 事業ボランティア「手づくり会」
- 16 受信資料検討班会
- 17 自主研修「ケースと私」
(リモート)
- 20 統計システム事業委員会
(リモート)
- 21 事務局会議
第46期生養成講座(演習⑤)
- 27 事業ボランティア「手づくり会」
(中止)
- 28 第4回教育委員会

29 第4回理事会

30 広報企画会議

8月

- 2 統計システム事業委員会
(リモート)
- 7 第46期生養成講座(1日目)
(講師：岡田健一氏)
- 8 “ (2日目)
- 10 フリーダイヤル「自殺予防いのちの電話」
- 18 第46期生養成講座
(講師：五斗美代子氏)
- 23 第5回理事会
- 24 事業ボランティア「手づくり会」
(中止)
第5回教育委員会
- 25 第46期生養成講座
(講師：松尾公孝氏)
- 27 事務局会議
- 28 第2回全体研修(延期)

【編】集【後】記

コロナ禍でその開催にはさまざまな意見がありましたが、東京オリンピック・パラリンピックが催されました。長い歳月をかけて鍛え上げてきたアスリートたちの心と体とパフォーマンスに胸躍り、心揺さぶられながらの観戦でした。

東京オリンピック・パラリンピックは「スポーツには世界と未来を変える力がある」をビジョンとし、「多様性と調和」を基本コンセプトに掲げた大会。あらゆる違いを肯定し、受け入れ、認め合う「共生社会」を育もうというメッセージが示されました。世界人口の15%の障がい者との共生に目を向けるキャンペーン「WeThe15」が東京パラリンピックを機に始まりました。

いのちの電話にはさまざまな方々が電話を掛けてくれます。匿名の電話は、思い込みや先入観を生みやすい情報(年齢、性、容姿、職業、障がいなど)が少ないのいいところでもあります。通話者一人一人のかけがえのない内的世界にしっかり向き合い、一期一会の出会いを大切に、お話をお聴きしています。これからも時代がすべての個性と心が大切にされる世界に向かうことを願って活動を続けていきます。

(Y. T.)

2021年6月~2021年8月

電話受付件数

受付件数 3,173件

延べ相談員数 873人

延べ受信時間 101,853分

発行所

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-7-7
社会福祉法人 福岡いのちの電話

TEL (092)713-4343・FAX (092)721-4343

ホームページアドレス

<http://www.f-inochi.org/>

発行人 久保 千春

編集人 古賀 俊次



この「会報」は共同募金の配分金で作成しています。